

コスタリカ内政・外交定期報告(2024年7月)

【ポイント】

内政

- ナジュリベ・グアダムス文化青年大臣の解任
- ホルヘ・ロドリゲス報道大臣の異動
- 「ジャガー法」に対する最高選挙裁判所(TSE)違憲判決

外交

- チャベス大統領のパナマ訪問
- アンドレ外相の訪米
- ベネズエラ大統領選に対する非難声明
- チャベス大統領の訪日中止

【本文】

内政

- ナジュリベ・グアダムス文化青年大臣の解任

6月29日、大統領府は、ナジュリベ・グアダムス文化青年大臣の解任を突然公表した。大統領府によると、同大臣らが大統領府の事前承認を得ずに、LGBTQI プライド行進を実施し、「文化的関心の宣言」を行ったことを解任の理由としている。

- ホルヘ・ロドリゲス報道大臣の異動

7月11日、チャベス大統領は、ホルヘ・ロドリゲス報道大臣を解任し、新文化青年大臣として任命した。7月26日、チャベス大統領は、新報道大臣にジャーナリストのアルノルド・サモラ・ミランダ氏を登用することを発表した。

- 「ジャガー法」に対する最高選挙裁判所(TSE)違憲判決

(1)チャベス政権が推進する、会計検査院の統制を弱めることを目的とした「ジャガー法」(Ley Jaguar)について、7月29日、最高選挙裁判所(TSE)は、違憲判決を下した。本法案は、不正が検知された場合に会計検査院が公共行為や契約を停止する機能を妨げる条項等が盛り込まれていた。

(2)本件に関し、最高裁第4法廷(憲法法廷)の裁判長は、憲法第183条で定められた「会計検査院が財政の監督を任務とする」ことに抵触し、「憲法上の機能を行わせるための重要な手段が奪われる」と説明した。

(3)これに対し、翌30日、チャベス大統領は「ジャガー法」を撤回し、一部表現等を改変した新ジャガー法(Ley Jaguar 2.0)を提出し、国民投票に委ねると発表した。

外交

●チャベス大統領のパナマ訪問

6月30日、チャベス大統領は、翌7月1日に新たにパナマ大統領に就任するラウル・ムリーノ氏と会談を実施し、移民・治安問題、貿易関係等について協議した。会談後、チャベス大統領はメディアに対し、ダリエン地峡を封鎖して治安強化に努めたいというムリーノ新大統領の発言を尊重すると述べた。

●アンドレ外相の訪米

7月17日～18日、アンドレ外相は米国を訪問し、ブリンケン国務長官と会談を実施したほか、「経済的繁栄のためのパートナーシップ」(APEP)外相会合に出席した。ブリンケン国務長官は、メキシコ、パナマ、コスタリカ等の国々とパートナーシップを結び、米州で半導体を開発するイニシアチブを発表した。これに対しアンドレ外相は、コスタリカが同イニシアチブの主導権を握り、主要分野であるクリーンエネルギーや、デジタルスキル開発等を推進していきたい旨述べた。

●ベネズエラ大統領選に対する非難声明

(1)7月28日、当国大統領府は、ベネズエラ大統領選に対する非難声明を次のように発表した。「コスタリカ政府はニコラス・マドゥーロ氏のベネズエラ大統領就任宣言を断固として拒否する。我々は、ベネズエラ国民の崇高な意思が尊重されるよう、民主主義を重視する他国政府や国際機関と協力していく。」

(2)同28日及び29日、当国外務省は、アルゼンチン、ウルグアイ、エクアドル、グアテマラ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国と連名で、本件に関する非難声明を発表した。

●チャベス大統領の訪日中止

7月下旬、チャベス大統領は、健康診断の結果を理由に、8月上旬に予定されていた日本への訪問を中止した。エステファン・ブルネル第一副大統領が代理で訪日し、アルノルド・アンドレ外相、マヌエル・トバル貿易大臣、パウラ・ボガンテス科学技術通信大臣が同行する。